

## 【分科会Ⅰ】

### 「放課後児童クラブの現状と課題Ⅰ」※吉本・畠出席

講師：厚生労働省雇用均等・児童家庭局育成環境課 課長 為石 摩利夫

新潟県立大学人間生活学部子ども学科 准教授 植木 信一

- ・為石氏の講演は、放課後児童クラブの運営基準に関するなどを冒頭で少々話す。主な内容としては、子どもの心理を分析し、大人（指導員）が出来ることなど、子どもと関わるうえで大切な事がメインであった。
- ・植木氏の講演は、哲学的な内容であり、子ども・保護者・指導員の関係性から、子どもが発達する過程で重要なことや、子どもがどのように発達していくかを説くものであった。

#### ※為石氏の講演内容のポイント

- ・被災した子どもたちはP T S D（心的外傷後ストレス障害）になる事があり、現実を受け入れることができず、現実逃避や精神的な自己防衛から自閉的になるため、心のケアが重要であり、自立支援を手助けしなければならない。
- ・「グリーフケア」・・・悲しみから立ち直れるようそばにいて支援すること。一方的に励ますのではなく、相手に寄り添う姿勢が大切。
- ・「遊びが子どもの心を育てる」ことを念頭に、グリーフケアの手段として遊びを用いる。子どもたちが被災を受け入れられるよう支援する。
- ・気づくことと連携の重要性。子どもは、学校・児童クラブ・家庭、それぞれの表情があることを理解し、先生・指導員・親が気づいたことをそれぞれが連携（共有）し、子どもが何を求めているかを理解することが大切。
- ・保護者への支援は児童の虐待防止。虐待の対応が子どもの未来を変える。
- ・地域による家庭への支援、「つながり」を大切にする。

#### ※植木氏の講演内容のポイント

- ・子どもの様子を把握する際に、子どもの様子だけを注目するのではなく、子どもに影響を及ぼす様々な「環境条件」にも注目する。放課後児童クラブにおいては、その「環境条件」が「生活の場」となる。
- ・「放課後の価値」
  - ①タテの関係とヨコの関係のバランス
  - ②複数年にわたる子どもの発達把握
  - ③異年齢集団の力の活用
- ・児童クラブは指導員と児童のタテの関係でありながらヨコの関係でもあり、その関係性が成り立っている（学校はタテの関係であり、価値観が異なる）。また、指導員と保護者についてもヨコの関係性が強く、児童相談所や学校では敷居が高く相談できない事柄も気軽に相談でき、「子育て支援」につながる。

- ・放課後の「子ども支援」をとおして「子育て支援」を実施する。
- 「子ども支援」…子どもへの支援をとおして家族全体の福祉の向上を  
　　はかる支援
- 「子育て支援」…保護者への支援をとおして子どもの発達を促す支援
- ・指導員は、「生活の場」において、様々な発達のキッカケを提供できる。遊びなどの意図的な「かかわり」によって、子どもの発達に必要なキッカケを「つなぐ」ことができ、それがソーシャルワーク（社会福祉事業）である。「つなぐ」ことを整理することが重要。
- ・エンパワメントとは、自分が自分らしい人生を歩んでいけるように力をつけ、自分自身の生活や環境をよりコントロールできるようにしていくこと。放課後児童クラブにおけるエンパワメントとは、子ども自身が「放課後の価値」を活用することによって、その潜在能力を顕在化させ、自分自身の発達につなげていこうとする概念である。
- ・子どもが、児童クラブや指導員の機能を活用する力（自立する力）のことを「ワーカビリティ」という。

## 【全国交流会】

- ・全国から参加している児童館・児童クラブ関係者が集い、福島の郷土食を交えて、豊かなネットワーキングの場とする目的として開催された。
- ・約300人が参加し、ゆるキャラの登場、フラダンスの発表、ウクレレ・ギター演奏、等々、様々な演出で会場が一体となり、熱気に包まれていた。

